

守山まるごと活性化 議事要旨

作成日:平成27年8月27日

作成者:村上 由布紀

会議名: 第1回 D 安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト推進会議

日時: 平成27年8月20日(木) 午後8時から9時15分まで

場所: 中洲会館 1階 和室

出席者: 伊藤 五作、田中 勝次、小林 直生、川村 貞雄、大塚 唯昭、石原 紀代子、
奥野 佳十、田中 重雄、上路 富治枝、戸田 守晃、中西 義夫、棚上 宗康

出席者(行政): 川端 和行、田口 二行、筈本 晋資、高山 尚道、三津川 さつき、会館主事

使用資料: 次第、名簿、守山まるごと活性化プラン(パンフ)、守山まるごと活性化の取組み、
中洲学区まるごと活性化プラン(抜粋)、デマンド乗合タクシー(もーりーカー)の概要、
守山市路線バスのご案内

議題

- ・中洲学区守山まるごと活性化プランの策定経緯について
- ・今後のDプロジェクトの進め方について
- ・行政からの情報提供

会議要旨

内容

●策定経緯について(高山主任より説明)

●「ふれあい交通の会」について(服部自治会長より説明)

- ・平成23年8月に自治会長会を中心として発足。
- ・各自治会からボランティアの運転者と事務員を募集。学区民からの寄付を募り、車1台を購入し、共用利用。
- ・利用は会員制で、年会費1,000円、利用時に片道200円負担。
- ・各自治会で利用人数、回数にばらつきがある。服部自治会では、月15~20回の利用、7人の利用があった。
- ・運転者の高齢化および新たな担い手の不在、事故発生時の金銭以外の問題、行政によるもーりーカーの運行が開始したことなどから、平成26年9月に「ふれあい交通の会」を解散(発展的解消)。

<意見等>

- ・利用者から「運転者に迷惑をかけてしまうので、使うのが…」という声があった。

●メンバー自己紹介

●「もーりーカー」の概要について(川端課長より説明)

<意見等>

- ・うまく乗れず、利用せずに歩いて帰った人もいる。
- ・もーりーカーの行き先場所の増加をしてほしい。
- ・前日18時までの予約…行きは良くても帰りの時間が指定しづらく不便。
- ・(行政)一律500円に統一したい。

(裏面に続く)

決定事項

- ・行政が近隣市町のコミュニティバスの状況を調査する。

次回以降について

- ・行政から近隣市町のコミュニティバスの状況を聞く。
- ・次回会議は9月~10月にかけて、平日の夜に開催する。

会議要旨

内容

(続き)

●路線バスの概要について(川端課長より説明)

<意見等>

- ・ビッグレイクライン・・・時間がかかる(時計回り/反時計回り)が行き先によっては便利な時もある。運行開始が平成25年3月からのため、高齢者ではビッグレイクラインを知らない人もいる。→運行開始時に全戸配付はしている。
- ・バスのサイズ・・・大きなバスで運行するから維持費がかかるのでは。サイズダウンすると運賃も安く、本数を増やすことができるのでは。→バスは使いまわしなので難しい。
- ・(行政)議会では市バスの運行はしないとしているが、市長のマニフェストで運賃値下げをうたっているので、運賃を一律200円にする案も出ている。しかし、値下げをした分を国や市で補填する必要があるが、国からもらえなくなったら続けるのか、運賃を下げてでも乗車人数が増えないなら実行しない方が良いとの意見もある。
また、レインボーロードへの乗り継ぎ拠点の社会実験を1年間行なう案も出ているが、タクシー・バス会社からしたら受け入れがたいと指摘を受けた。
- ・路線バスは本数が増えても人が使わなければ続かないが、地域の人々がどのようにしたら使える状況となるか考える必要がある。
- ・コミュニティバスはどうか。他市町の状況、行政からの評価と利用者からの評価を行政が調べて教えてほしい。